

目から鱗(うろこ)

シリーズ～さよならキリスト教～

聖書の有名な言葉③

2024/4/14

一般に知られている聖書の有名な言葉

- 「目から鱗が落ちる」
- 「働かざるもの食うべからず」
- 「狭き門より入れ」
- 「求めよさらば与えられん」
- 「豚に真珠」
- 「目には目を歯には歯を」……

一般に知られている聖書の有名な言葉

- 「目から鱗が落ちる」
- 「働かざるもの食うべからず」
- 「狭き門より入れ」
- 「貧乏は与えられん」
- 「豚に真珠」
- 「目には目を

古い言葉
(文語訳)が
多い!

誤解されて
いることが
多い!

本当の意味を
調べてみましょ
う!

たちま

忽ち彼の目より

うるこ ごとき

おち

鱗の如もの脱て

ふたた みる

再び見ことを得

え

たち

すなわち起て

バプテスマを受く

（使徒行傳九章十八節

文語訳／明治訳）

「目から鱗が落ちる」

- この言葉が聖書由来であることはあまり知られていない！
- 「今まで分からなかったことが、急に理解できるようになることを意味する言葉」(語源由来辞典)
- 「キリストの奇跡により盲目の目が見えるようになったという、新約聖書「使徒行伝」第9章の『直ちに彼の目より鱗のごときもの落ちて見ることを得』から生まれた言葉である。」(同上)

使徒言行録9章17～19節

そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、**たちまち目からうろこのようなものが落ち**、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。(新共同訳)

使徒言行録9章17～19節

そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、**原語“レピス”：魚の鱗**が見えるようになり、また、**皿**で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、**たちまち目からうろこのようなものが落ち**、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。(新共同訳)

サウロの回心①

- 律法学者のエリートだったサウロ
- イエスの弟子たちを捕らえるためにダマスコ（エルサレムから200km以上）に向かった
 - 「この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するため」9:2
- ダマスコの町に入る直前に光に打たれイエスの声を聞く
 - 「『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、答えがあった。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』」9:5

サウロの回心②

- サウロは目が見えなくなり、ダマスコに入る
 - 「サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。」8, 9
- アナニアがサウロのもとに遣わされる
 - 「主は言われた。『立って、「直線通り」と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。』」11, 12

サウロの目を見えなくさせていたもの

• 思い込み

- イエスは十字架で死んだナザレの大工で、彼を信じることは律法に反することだと思っていた

• プライド

- ファリサイ派のエリートとして、自分の考えに間違いは無い、と確信していた

• 不安と迷い

- 急速に広がっていく教えに対する不安
- ステファノの最後の姿はサウロに迷いを与えた？

見えない者から見える者に

• 突然の光

← 天からの啓示

• イエスの声

← イエスは生きている

• 目が見えなくなる(3日間)

← 挫折・悔い改め

• アナニアに祈られる

← イエスは信じる者たちに働いている

• 目から鱗のようなものが落ちる

← イエスの力

• 目が見えるようになる

← 新しい世界の始まり

目からうろこが落ちる

- 「今まで分からなかったことが、急に理解できるようになることを意味する言葉」
 - ある意味当たっている！
- 正しくは、**真理に対して閉ざしていた心の障害が取り除かれ、真理を受け入れることができるようになること**
- 「サウロは…すぐあちこちの会堂で、『**この人こそ神の子である**』と、イエスのことを宣べ伝えた。」9:20

私たちの目にある鱗

- サウロの目にあった「鱗のようなもの」
 - 小さなものでも目は見えなくなる
 - 私たちの心の目も、＜小さな思い込み＞や＜プライド＞、＜不安＞などによって見えなくなる
- 私たちは“ちゃんと”見えているか？
 - 「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい、濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」マタイ6:22,23



ミケランジェロが描いたパウロの改心
@パオリーナ礼拝堂のフレスコ画
ミケランジェロの自画像と言われている

たちま

忽ち彼の目より

うるこ ごとき

おち

鱗の如もの脱て

ふたた

みる

再び見ことを得

え

たち

すなわち起て

バプテスマを受く

（使徒行傳九章十八節

文語訳／明治訳）